

は不明だが、恐らく2類と思われる。

次に同一遺構内の共伴する土器から絵画土器の時期を見ていく。

六大A遺跡は、SD1出土で、弥生時代後期から古墳時代の大溝であるため共伴する土器の時期幅は広い。土器群毎で見ると、おおよそ山中式から欠山式の時期に当たる。また、脚付壺は山中式であると思われる。

里前遺跡は、SZ55出土で、1点のみ山中式の高杯が出土しているものの、出土土器の大部分は欠山式であり、欠山式或いはやや下の時期のものであると思われる。

堀町遺跡は、SZ399出土で、遺跡自体の存続は山中式までであり、この土器も山中式併行期のものであろう。

(2) まとめ

以上のように、龍の絵画土器は県内で6例出土している。

岩本氏の集成によると、龍の絵画土器の分布は奈良・大阪に集中し、次いで岡山に多い。今回の事例では、奈良・大阪に集中するものの、6例の東の三重と5例の西の岡山と出土例が多い事が注目される。

3 鉄製煮沸具について

中世の煮沸具には、土師器製、石製、鉄製のものがあるが、このうち中世鉄製煮沸具は三重県内でわずか9点余りしか出土していない⁽⁴²⁾（第51図）。その種類は、鍋が岩出地区内遺跡群⁽⁴³⁾から3点、多気遺跡群⁽⁴⁴⁾から2点、斎宮跡から1点の計7点、鍋の弦と考えられるものが三宅西条城跡⁽⁴⁵⁾から1点、羽釜と思われるものが阿形遺跡⁽⁴⁷⁾から1点である。残存状態は、残存度が良くて口縁部で1／5程である。

まず鉄製の煮沸具が確認されている5遺跡について概観する。岩出地区遺跡群は、伊勢神宮の祭主、大中臣氏の居館に関わる遺跡である。多気遺跡群は、北畠氏の拠点が置かれた遺跡である。斎宮跡や阿形遺跡は、数多くの掘立柱建物が確認された大規模な集落遺跡である。というようにいずれも大規模な中世集落や城館が営まれていた性格の遺跡である。里前遺跡でも多数の墨書土器が出土し、川崎志乃氏は「年貢集配に関する遺跡」としている。このような

そして、龍の絵画土器が出土する遺跡はいずれも永続的大規模集落が営まれた、それぞれの地域を代表するような遺跡が多く見られる。里前遺跡では、現在のところ、同時期の遺構は僅かで大規模な集落とは言えない。しかし、里前遺跡の龍の線刻が出土したSZ55は環濠の可能性があり、津市野田では、野田銅鐸（突線紐式三遠式銅鐸）が出土し、地理的に近い神戸から神戸銅鐸も出土している。これらに隣接することから、付近に大規模な集落が存在する可能性が高い。

また岩本氏は、龍の絵画土器は畿内で出現したと指摘し、県内の絵画土器の出現時期について、原田氏は山中併行期と指摘している。今回の検討で、県内の出土事例では初現期の頭部を意識した表現を持つ龍は見当たらなかった。そして、龍の分類はすべて岩本分類2類の時期に相当し、その前後関係は、共伴する土器から堀町遺跡出土龍が最も古く、次いで六大A遺跡、里前遺跡という結果を得た。以上の事から県内の龍の絵画土器出現時期は、概ね山中式併行期に当たり、欠山式併行期或いはやや下の時期まで存在すると思われる。（酒井）

遺跡では、鉄製の煮沸具が用いられていたことは確実である。

しかし、鉄製の煮沸具の使用は、上記の大集落や城館などで限定的に行われていたと断定できるのだろうか。土師器類が大量生産によるものであり、耐久性の低さから多量に消費されているのに対し、鉄製煮沸具は破損しても修繕可能であり、再利用されるため、廃棄されるものが絶対的に少ないこと。その形状から口縁部や顴部、弦が出土しないと認識されにくいことなどが、確認例を少なくしているのかもしれない。

また、本来出土しているにもかかわらず、発掘調査報告書作成中の遺物選別時に、調査担当者の不見識により一瞥すらされずに打ち捨てられているものがある可能性がある。鉄製煮沸具に関して一定の意識のある特定の調査担当者がかかわった遺跡で、鉄製煮沸具が多く出土していることも気になることで

ある。

発掘調査によって遺跡から遺構が発見され遺物が

出土し、過去の人々が生活した痕跡を復元していく
ためにも、注意を喚起したい。(酒井)

4 中世前期の墨書土器について

今回の調査では41点の墨書土器を確認した。1次調査では390点もの墨書土器を確認し、里前遺跡からは多量の墨書土器が出土している。各地区での出土点数は第47図の通りである。では、1次調査と2次調査でその様相が異なるのかどうかを報告書掲載遺物から探っていきたい。

(1) 墨書土器の出土数・場所・種類

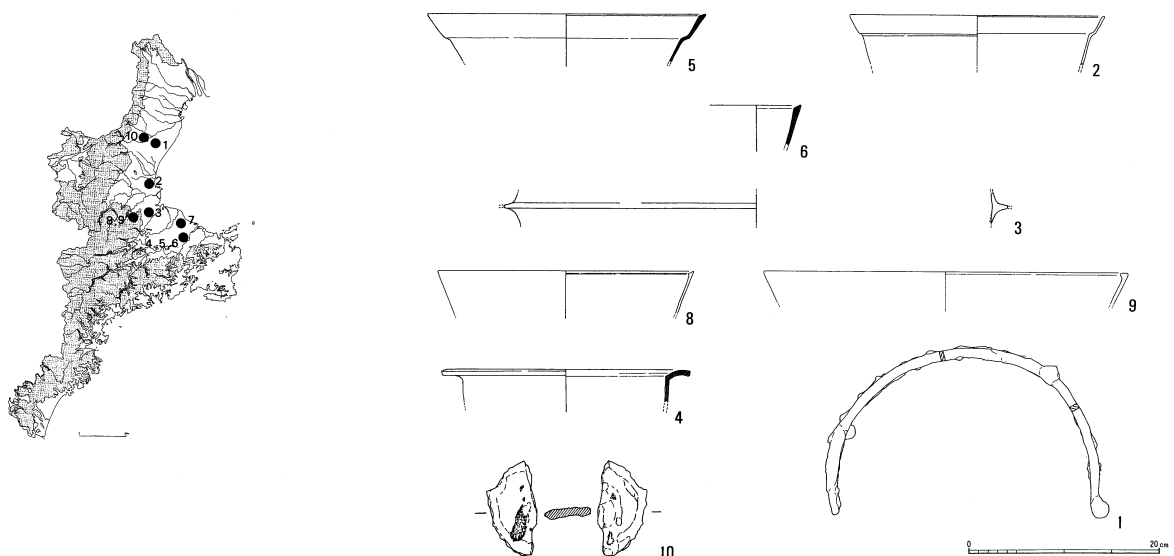
1次調査では、中世前期の墨書土器が388点出土している。北半部からは21種類53点、南半部からは85種類335点、南半部(南端)に集中する。

その種類は、年貢に関する語句「米」、「加」、「寺」、「大」等の文字、ドーマン、記号等92種類にもものぼる(第22表)。中でもドーマン、円形・直線を呈するものが多く見られる。そして、各種類の墨書土器(ここでは4点以上を差す)は北半部と南半部の両

方から出土するのに対して、川崎志乃氏の墨書分類表(第22表)A2「政所」、E3「ㇿ」、K7「ㇿ」は南半部南壁寄りから、K2「ㇿ」は北半部からのみ出土している。1次調査では、遺跡の東側にあたる三泗川沿いから最も多く墨書土器が出土し、その出土数・場所は陶器の出土数に依っている。

2次調査では、中世前期の墨書土器が38点出土している。A地区から2種類2点、B地区2種類2点、C地区3種類5点、D地区18種類30点、D地区SD121・129に集中する。

その種類は、文字、ドーマン等、判読不可能な個体を含めて約20種類である。種類は文字が多く、A4「上」、A7「よね」、A13「大」や「米」、「𐄂」、「丁」が見られる。また、ドーマンのC4「𐄂」や直線を呈するものG1「𐄂」、その他のK9「𐄂」も見



遺跡名	所在地	遺構	時期	器種	残存度	参考文献
1 三宅西条城跡	鈴鹿市三宅町	—	—	鍋の弦	ほぼ完形	『三宅西条城跡発掘調査報告』三重県教育委員会 1983年
2 里前遺跡	津市野田字里前	SK 1 2 8	—	鍋	1/12	『ヒキタ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター 1992年
3 阿形遺跡	松阪市阿形町	SK 7 4	16世紀前半	羽釜	—	『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告—第4分冊—』三重県埋蔵文化財センター 1992年
4 蚊山遺跡所り垣地区(岩出遺跡群)	度会郡玉城町岩出字所り垣・塚名	SK 3 2	時期未詳	鍋	1/5	『岩出地区内遺跡群発掘調査報告—度会郡玉城町所在、ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター 1996年
5 岩出遺跡群ケカノ辻・角垣内地区	度会郡玉城町岩出字ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山	SE 3 3 7	14世紀後半～15世紀	鍋	1/8	『岩出地区内遺跡群発掘調査報告—度会郡玉城町所在、ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター 1996年
6 岩出遺跡群ケカノ辻・角垣内地区	度会郡玉城町岩出字ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山	SZ 4 0 9	15世紀～16世紀	鍋	口縁部片	『岩出地区内遺跡群発掘調査報告—度会郡玉城町所在、ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター 1996年
7 斎宮跡(第100次)	多気郡明和町	—	—	鍋	—	斎宮歴史博物館柴山圭子氏のご教示による。
8 多気遺跡群	一志郡美杉村上多気字土井沖	SD 1 2 8	16世紀後半～17世紀	鍋	—	『多気遺跡群発掘調査報告—一志郡美杉村上多気所在—』三重県埋蔵文化財センター 1993年
9 多気遺跡群	一志郡美杉村上多気字土井沖	裸群下黒褐色土	16世紀後半～17世紀	鍋	—	『多気遺跡群発掘調査報告—一志郡美杉村上多気所在—』三重県埋蔵文化財センター 1993年
10 小野遺跡	亀山市小野町	—	—	鍋か?	—	『亀山市文化財調査速報』VOL. 11 亀山市教育委員会 1997年

第51図 鉄製煮沸用具実測図・位置図・一覧表(1:8)